

「情報倫理デジタルビデオ小品集」の継続的開発 ～情報教育部会から～

Continuous Development of “Digital Video Clips of Information Ethics” —SIG-ITE—

北海道大学情報基盤センター教授 布施 泉

Izumi Fuse, Professor, Information Initiative Center, Hokkaido University

ORCID ID : <https://orcid.org/0000-0001-9473-2322>

1. はじめに

大学 ICT 推進協議会 (AXIES) の情報教育部会は、「情報教育等について、国内の状況を調査・集約することと、ネットワークセキュリティ確保のための適切な情報倫理教育のコンテンツの調査、研究、整備を行うこと」を目的に、AXIES が発足した 2011 年から活動を行っている。

本部会の主たる活動の一つ「情報倫理デジタルビデオ小品集」（以下、小品集と記す）の制作に関しては、AXIES 発足前（国立大学情報教育センター協議会の折）から継続して行っている。本稿では、小品集に関し、全体的な紹介をするとともに、継続的な制作・展開を行っている現状と今後の課題等について報告する。

2. 情報倫理デジタルビデオ小品集

小品集は、大学 1 年生を視聴の主たる対象と考えた短編動画クリップ集である。数分～10 分程で完結する。男女 3 名（小品集 3 は 5 名）の大学生を主人公とし、俳優による実写映像で制作している。大学生活で起きる様々なトラブルを題材に、情報倫理に関わる問題を大学生が自分ごととして考えるための素材集として 2002 年に制作が開始され、2003 年に小品集 1 が公開された。最新版（小品集 9）は 2024 年 12 月にリリースした。表 1 にこれまでの制作状況、表 2 に TF 参加者一覧（色付きが参画箇所）を示す。TF は情報教育部会の下で結成され、小品集の著作・監修として寄与し、業者の協力を得て制作を行う。TF の詳しい役割は 4 章で記す。

近年の小品集では、何らかのトラブルが起きる物語編と、その解説編に分けて制作している。大学の授業内で、オープンエンドな議論をするために物語編のみのクリップを含めたものもあるが、解説編とのセットの要望が高く、小品集 7 からの新規クリップは全て物語編・解説編のセットとした。小品集 9 における動画の画面例を図 1

表 1 小品集の制作状況

	発行年	話数	備考
1	2003	8	※小品集 1～3 は、メディア教育開発センター (NIME) による企画・制作。NIME 廃止に伴い、著作権は放送大学を経て、AXIES に移転。小品集 4 以降は、AXIES による企画・制作。
2	2005	20	
3	2008	30	
4	2012	5 (18)	
5	2014	7 (19)	※左話数は、新規制作話数であるが、小品集 4～7 は過去の小品集の再録を含め DVD に掲載した話数を括弧内に記載。
6	2016	12 (22)	
7	2018	11 (20)	
8	2021	8	
9	2024	8	

表 2 小品集の TF 参加者一覧

（横軸の 1～9 の数値が各小品集の番号を示す）

TF メンバ (所属は最終 TF 時点)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
中村純 (広島大学)	TF 主査					顧問			
岡部成玄 (北海道大学)									
山田恒夫 (放送大学)	Advisor					顧問			
中西通雄 (追手門学院大学)									
山之上卓 (鹿児島大学)						顧問			
深田昭三 (愛媛大学)						顧問			
辰己丈夫 (放送大学)									
村田育也 (福岡教育大学)						顧問			
布施泉 (北海道大学)						TF 主査			
多川孝央 (筑紫女学園大学)									
上原哲太郎 (立命館大学)						顧問			
上田浩 (法政大学)						休			
和田智仁 (鹿屋体育大学)						協力			
匹田篤 (広島大学)						協力			
中道上 (福山大学)						協力			



図 1 物語編・解説編の画面例
（小品集 9 「ネットの中では大反響！？」より）

に示す。

3. 情報化の進展と情報倫理の重要性

小品集が最初に世に出てから、この20余年で社会は大きく変化した。例えば小品集1のオープニングでは、冒頭に大学のPCを前に『この「ログイン」って何?』というセリフがある。「ログイン」がキーワードとして提示されており、当時は用語として説明する必要があったことを示している。皆がスマートフォンを所持し、多数のサービスを「ログイン」して利用する2025年現在、ログインの意味が分からない人は、ほばいないはずである。

小品集1（動画の他、格納されたチェックテストを含む）を確認すると、この20年で変わった点と変わっていない点を確認できる。例えばパスワード管理は、小品集1でも9でも取り上げている。小品集1ではメモ書き禁止、定期的に変更というルールが推奨されていたが、小品集9の解説では紙のノートに書いての保管（但し、パスワード文字列すべてを書くのではなく、自分だけがわかるような書き方）を推奨している^[1]。また、定期的なパスワード変更は求めず^[2]、長く複雑にしたうえで、サービス間で使いまわさないようにすることを推奨している。これは2017年6月の米国国立標準技術研究所の「NIST SP 800-63-3」におけるパスワード管理の方針転換に由来するが、情報セキュリティの知識は時代に応じたアップデートが必要であることを端的に示している。

一方、インターネットを通じた人との出会いやネットオークションにおける詐欺やトラブルに関しては、利用アプリ等は異なるとしても、インターネットの先にいる人が信頼できるか、何をもって事実を確認するか等、気を付ける点は本質的に今と大きくは変わらない。

さらに現在は、小品集1のゆったりした時代には想像できない程、私たち自身の好みや他者とのつながり等を含む大量の情報が日常生活の中でインターネット上を流れ、情報が収集され、各種サービスで利用されている。情報システムを安全に利用するために、またプライバシーや著作権等、他者の権利を侵害しないようにするために、誰もが情報を扱うことを意識し、一人一人が基本的な知識を身に付け、行動につなげていくことがより重要になっている。

近年はAIに関する話題をよく見聞きする。AIの効果的利用や望ましい利用についての議論が多いが、情報倫理の観点では、社会や人間の拡張としてのAI、例えばAIを仮想的な人と見なしたコミュニケーションで生

ずる様々な事象等も考慮の対象となる。小品集9ではAI依存気味の学生を取り上げたが、実際に現実社会での報告事例も出てきている。私たちは、社会や生活の変化に伴うこれら事象を、どのように考え対応することが「正しく善い」かを、意見を交わしながら深く考える必要がある。

情報倫理は、倫理学の中で応用倫理の一つとして位置づけられている。種々の情報が、即座に・大量に・グローバルにインターネット上を流れ、その利用により人々の日常生活が成り立っている現在では、情報倫理として扱うべき対象範囲は広がっており、筆者は誰もが情報倫理を学び続ける必要性をますます強く感じている。

4. 小品集の制作とTFの寄与

情報倫理教育の必要性・重要性に応じ、大学の授業で利用できる適切な教材の需要は高くなる。情報技術の進展は速く、情報倫理の対象は広く、個々の教員が対応するには限界が生じるためである。大学で共通に必要な教材を共同開発することは、大学教育の質向上に資する意義ある取り組みである。AXIES情報教育部会では、TFを結成して小品集の継続的な開発を進めている。参画いただいているTF各位の多大な尽力により、高い質を保ちながら教材制作を続けることができていると自負している。表3に小品集9の制作スケジュールを示す。近

表3 小品集9の制作スケジュール（概要）

月	内容	TFの寄与（質担保）
5	・キックオフミーティング (Zoom) ・テーマ案の持ち寄り・議論 ・テーマ案の確定・担当決め	・意見交換・取り上げるべきテーマと学習目標の設定 ・シナリオ執筆・調整
6	・シナリオ原案の作成（担当） ※ TF間の意見はSlackに記載 + Zoom 打合わせでも意見交換	・画面案の作成・確認（撮影時に使う画面の確認・修正提案・改善確認）
7	・シナリオ原案送付（TF→業者） ・シナリオ案返却（業者→TF）	
8	・シナリオ修正（TF⇄業者） ・オーディション（TF4名が参加） ・鹿児島でのTFミーティング ・シナリオ確定（解説以外を確定）	・シナリオ修正・最終確定 ・TF複数での撮影立ち会い
9	・撮影立ち会い（現地+Zoom） ・フリップ・学習のポイントの作成	・フリップ作成開始
10	・第一試写確認、修正依頼 ・第二試写確認、修正依頼	試写の確認と修正（計3回）
11	・映像最終確認 ・解説のセリフの最終確認 ・MA（ナレーション等音入れ） ※ TFは現地集合	・解説ナレーションのセリフ確定・音声収録（TF立ち会い） ・学習のポイントの作成
12	・完成・販売 ・年次大会企画セッション開催（お披露目）	企画：情報倫理新作ワークショップ（TFがオーガナイザに）

年は AXIES の 5 月総会後に開始し 12 月年次大会までに完成させるタイトな日程での制作である。

小品集は、TF と業者との連携・協力の下で制作される。実際の撮影等はプロの業者のもとで行われる。

小品集 9 では、TF の打ち合わせは、繁忙期は週 1 回のオンラインミーティングを行うとともに、Slack を活用して進めた。まずは、テーマとして何を取り上げるかの素材を出し合い、その中で大学 1 年生に対し重要なテーマとその寿命の程度を想定した上で、8 つのテーマを確定し、担当者を決める。その後、担当者は、各テーマの学習目標と物語案を提案する。提案された案は、順次、他の TF を含め、何週もかけて議論する。このシナリオを確定させていく過程で、自由に TF 間で意見を交わすことが、物語のリアリティを高め、質の担保につながると考える。この 20 年間で、ミーティング方法はオンライン等の変化があるものの、TF 間で合意を取りながらシナリオを確定していく作り方は、基本的には変わっていない。

そのシナリオ素案を業者に渡し、より分かりやすい会話としてのシナリオの提案を受け、TF がさらにその修正を返すといった調整を進めていく。また撮影時に必要な画面を業者が作成し、TF はその内容を精査し修正を求めることも行う。小品集 9 の制作では、シナリオの確定が求められる 8 月末に鹿児島に TF 全員が集合し、最終シナリオと各種画面確認・提案等を行った。その上で、9 月上旬の 4 日間の撮影は、TF3-4 名が交代で現地立ち会いをし、残りがオンライン上で立ち会いする等、ハイブリットで行った（図 2 参照）。11 月 MA（ナレーション等の音を入れる作業）も TF が現地に全員集合し、ナレーションのセリフの最終確定等をしながら立



図 2 ハイブリット撮影立会いの様子（現地 TF は 4 名）



図 3 2025 年次大会・企画終了！（出演俳優 2 名も企画参加）

ち会い、小品集を完成させていった。

近年は、完成年度の AXIES 年次大会で、情報教育部会の企画として、新作のお披露目を行っている。2024 年 12 月には、初めて出演俳優（小品集 9 では現役大学生）を招いたワークショップを行い、演じる際に情報倫理をどう考え、取り組んだかについても伺った（図 3 は当日企画終了後の記念撮影写真）。

5. 小品集 9 の概要と過去のものを含めた利用

小品集 9 で取り上げた 8 話のタイトルと各話のカテゴリ概要を表 4 にまとめた。費用と TF 労力の両観点から、テーマを取り上げる際は、過去のもので使えると思われる内容のテーマは省くことになる。従って、実際に授業で用いる際には、学生の状況に応じ、過去のものを含めての構成を検討するとよいと思われる。

表 4 小品集 9 のテーマ一覧

	タイトル	カテゴリ概要
1	たかがパスワード、されどパスワード	情報セキュリティ（パスワード・多要素認証）
2	本人確認、スマホは大事	
3	つたわらない愛情コメント	SNS の生活への影響（誹謗中傷、フィルターバブルとエコーチェンバー、SNS 広告と詐欺）
4	ネットの中では大反響！？	
5	著名人のおすすめは信頼できる？	プライバシー等、人権と情報化との関わり（迷惑系 YouTuber、AI、著作権者人格権）
6	見せていいもの、いけないもの	
7	AI のおかげで絶好調？	
8	ストーリーが勝手に変わったの	

小品集 7、8 では、小品集 9 では触れていない内容として以下の内容を取りあげている。必要に応じて適宜参照されたい。

- ・ 小品集 7：Wi-Fi の安全性の確認、著作権（著作物の利用と引用、レポートの剽窃、共同著作物、漫画サイトへのフィルタリング）、肖像権等（ドライブレコーダ等の映像の取り扱い）、電子メールの作法、フェイクニュース等

- ・ 小品集 8：ウェブアクセシビリティ、AI (ELSI)、フィッシング、スマートフォンとプライバシー、3rdパーティ Cookie、等

6. 小品集に関する評価

小品集を開発した当初、このような短編動画教材はあまり見受けられず、国内外の学会等で高く評価された[3]。

小品集 2 と 3 は、2005 年と 2008 年に ACM SIGUCCS の教材ビデオ部門へ応募し、2 回連続で教材賞を受賞し

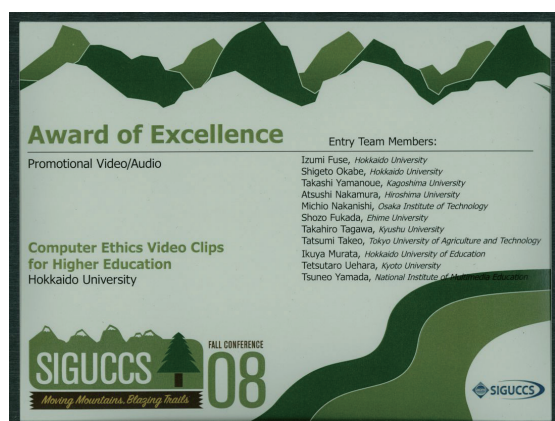


図 4 ACM SIGUCCS 優秀教材賞を連続受賞

た（図 4 参照）。情報処理学会情報教育シンポジウムでのデモンストレーション賞も受賞している。

ポートランドで開催された 2008 年度 ACM SIGUCCS の大会では 40 分強の発表時間内で、字幕付きの「日本語音声」の動画（小品集 3：安直なパスワードで重大事件！）を流したが、視聴の際の笑いのポイントが日本人学生と全く同じであることに驚いた。この事実は、小品集が留学生への情報倫理教育にも資する可能性の示唆でもあり、後の筆者の留学生用教材開発へも影響を与えた。

近年は教材コンクール等への応募を検討してこなかったが、今後は PR を兼ね、可能な範囲での応募を検討したいと考える。

7. 小品集の販売形態と価格設定・利用実績

小品集は現在 AXIES で企画・制作を行っているが、受益者負担により利用者から収集した費用を次作の制作費用に用いることで、サステナブルな開発体制が構築されている。

利用の大きな柱として、大学の共通教育としての授業利用、研修等での利用、大学生の自習用としての利用、



図 5 ③大学生向けライセンス（生協契約 PC 購入者）の画面例

等が見込まれるため、現在の販売方法としては、① DVD 販売、②大学向けライセンス販売（全学・学部・台数別のライセンス）③大学生向けライセンス販売（一部地区を除く、生協契約 PC 購入者）の 3 種を用意している。DVD 本体（2025 年 2 月現在 5,000 円 / 枚）での利用は、教員が教室で学生に視聴させることを想定したもので、LMS 等への蓄積・視聴は許諾していない。LMS への蓄積・視聴を想定する場合は、②を利用いただくようお願いしたい。③の大学生協 PC 購入者へのライセンス画面例を図 5 に示す。2025 年 2 月現在、小品集 9 では日本語字幕も提供し、字幕付与での視聴も可能である。

2023 年度の販売実績は以下の通りである。

- ① DVD 本体販売：情報倫理デジタルビデオ 7 および 8（計 65 枚）
- ②全学ライセンス：44 大学（会員 35 大学、非会員 9 大学）
学部ライセンス：1 大学（非会員 1 大学）
台数ライセンス：7 大学、899 台（会員 1 大学 100 台、非会員 6 大学 799 台）
- ③生協契約 PC 購入者（動画配信：4 年間有効）：65,743 名

2024 年 12 月の小品集 9 公開により、多少のプラス変動が見込まれるが、今後も同程度以上の継続利用数を想定している。

8. おわりに～小品集制作に関わる課題とともに～

本稿では 20 年余りにわたる小品集の継続的な制作について紹介した。最後に今後の課題について述べる。小品集制作において最も重要な点は、時代に即した題材の提供と教材の質の担保である。制作費用の点では、前章の通り、現時点では AXIES によるサステナブルな制作

環境が整えられており大きな心配はしていない。

一方で、制作 TF の知識や経験の継承を含めた人的側面での不安が残る。TF の人選・拡充は 4 章で示した TF の役割からわかるように教材の質に直結する。小品集 9 制作にあたり、情報教育部会として新規 TF の募集を行ったが、その反応は鈍かった。表 2 に示す通り、新規 TF は、著作者ではなく「協力者」からの参画でも差し支えないので、教材制作に興味のある教員には是非参画いただければと思う。一つの作品が完成していく過程を経験することは興味深く、その後の教育・研究にも役立つと考える。また、小品集の制作を積極的に評価する組織的体制も望まれる。特に TF 所属大学ならびに AXIES には、本小品集の制作に携わる TF に対し、大学教育への質向上への貢献として評価していただければと強く願う。

小品集 1 の開始当初は、素材としての教材が求められていたが、近年は「コース」としての提供のニーズもあるのではないかと感じる。例えば、マイクロクレデンシャルとして情報倫理コースを設定する可能性はあるだろうか。コース提供の観点では、各大学の状況に応じ、各小品集の素材を取捨選択できるレスポンス対応サイトの提供、学習者に設問等とともに提示可能な LMS 環境の検討、動画の日英字幕対応（DEI 対応）など、まだまだ行くと良いと考えることがある。小品集を用いた学習経験と学習環境のあり方について、情報交換や研究交流の機会を年次大会企画だけではなく、今後も作れるとよいと考える。

AXIES で長年育ててきたこの小品集という教材を今後どのように活かし展開していくか、広くご意見やご要望を収集し、情報教育部会を通じ、今後も検討していけたらと考えている。

2025 年 2 月 25 日

謝辞

小品集の継続的開発に携わってこられたすべての皆様に感謝いたします。特に TF を退いた先生方との過去の限りない議論が、現在の教材開発においてもその血肉となっています。小品集 2 の制作完了時の打ち上げでの集合写真（図 3 と同様、俳優さん含む）の本誌掲載も検討しましたが、諸事情を鑑み今回は割愛しました。

参考文献

- [1] 内閣サイバーセキュリティセンター:「インターネットの安全・安心ハンドブック Ver 5.00」, <https://security-portal.nisc.go.jp/guidance/pdf/handbook/handbook-all.pdf>, pp.32-33 (2023), 2025 年 2 月 20 日閲覧。
- [2] National Institute of Standards and Technology, U.S. Department of Commerce:「Digital Identity Guidelines」, NIST Special Publication 800-63B, <https://nvlpubs.nist.gov/nistpubs/SpecialPublications/NIST.SP.800-63b.pdf>, p.14 (2017)
- [3] AXIES 情報教育部会サイト参照, <https://ite.axies.jp/sig/1468/>

【著者略歴】

布施 泉



1995 年北海道大学理学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。現在、北海道大学情報基盤センター教授。情報教育、ICT を用いた学習支援に関する研究に従事。特に、学習者

に応じた望ましい学習教材と学習環境の開発・適用・評価について関心を持つ。大学 ICT 推進協議会、CIEC (理事・副会長); 教育システム情報学会 (理事); 情報処理学会, 日本教育工学会, 日本情報科教育学会 (各会員)